



社会福祉法人 村山苑

村山元だより



最近では、身寄りのない方々への支援についてどう考えていいくかが話題になっています。今年は「丙午」で情熱をもつて行動する年です。地域で求められていることは何かをしつかりキヤッチし、地域と連携して、孤独孤立を防ぐよう多世代が集うことのできる居場所づくりに職員一同で取り組みを始めたいと考えます。どうぞ、本年も皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

今年度、法人内のすべての研修に「地域公益活动」について考えるワークを実施しました。自施設での地域活動の確認をしあい、今後自分が関わってみたい活動は何かなどの意見交換をすることができ、有意義な時間となりました。元々、村山苑では、保育所の開設後、地域住民の声に応えるように0歳児保育や障害児保育を率先して始めました。特別養護老人ホームの開所後には、在宅機能回復訓練事業やひとり暮らし老人給食サービスを実施することもあります。今でも、施設毎に、出前保育や離乳食試食会、空きスペースの無料貸し出し、地域でのゴミ拾いや職業体験受け入れ、リハビリ運動教室、法人単位では東村山市内社会福祉法人連絡会の活動やコドモナツマツリやふりばの実施、生活相談や中間的就労の場の提供等々を実施しており、これらのこととは職員の一人一人が理解していました。地域貢献は、法人理念の実現の一環であり、また、福祉施設で働く者の専門性を地域に還元し繋がりを築く必要のあるもの、という意見とともに、更に子ども食堂をやってはいかがという意見も多く出されました。頼もしくうれしい限りです。

要望もあり令和7年度補正予算において、物価高騰や賃上げに一定の支援方針が打ち出されたことは、少しホッとする出来事でした。しかし、超少子高齢化に歯止めがなく、労働力不足である現状は、私たちの仕事においても人材の確保難で引き続き最大の課題であります。人が働く場所を選ぶのには、給与は影響しますが、同時に自身の存在意義の確認であったり、いかにやりがいを感じるかということも左右するのではないかと思う。

昨年を振り返ってみますと、夏の参議院選挙で与党が過半数割れをし、石破茂首相が退陣、10月21日に高市早苗新政権が樹立すると、慌しい一年でした。その中で、福祉、特に介護事業において、各関係団体からの提言、

理事長
相原 弘子



あけましておめでとうございます。

令和7年度 法人研修について

法人研修担当 総務課長 杉山 陽子

令和7年度の法人内研修は、「地域貢献を考える」を共通テーマとして実施しています。地域公益活動は、社会福祉法人が果たすべき重要な使命の一つです。複雑化する地域課題や多様なニーズに対応するためには、職員一人ひとりが自らの業務を地域貢献という大きな視点から捉えることが重要となります。本研修で各施設の事業を共有し、実践に活かすことで、地域社会への具体的な貢献へと結び付けていきたいと考えています。令和7年度の研修概要と成果を報告いたします。

研修名	実施・予定日	参加人数	対象者
ステップアップ研修	6月27日(金)	14名	障がい者雇用職員各施設担当者
新任職員 フォローアップ研修	9月11日(木)	21名	新任職員研修参加者
栄養士・調理員研修	10月24日(金)	16名	各施設栄養士・調理員
ミドルリーダー研修	10月29日(水)	20名	勤続5~10年の職員
フォローフォロー研修	11月11日(火)	15名	勤続2~3年の職員
テーマ別研修 「地域貢献を考える」	11月18日(火)	32名	各施設より複数名
看護師研修	11月25日(火)	6名	各施設看護師
福祉サービス研究研修	1月20日(火)	一	各施設より複数名
新任職員研修	3月30日(月) 31日(火)	一	令和7年度中途採用者 令和8年度採用予定者

● **ミドルリーダー研修**
勤続5~10年の中堅職員による研修で、参加者が自発的に議論を進行。地域貢献とミドルリーダーの役割について活発な意見交換が行われました。「現場の声を吸い上げ、組織と地域の橋渡しとなる」「中間層として組織運営に貢献する」など、高い使命感が確認されました。この学びを現場に還元し、組織発展と地域貢献に努めます。



● **栄養士・調理員研修**
新任職員が半年ぶりに再会し、「地域貢献」についてグループワークを実施しました。自施設の事業発表と「今後、行つてみたい地域貢献」の実現方法を掘り下げ、活発に意見交換を行いました。同期の仲間が集まつたことで、半年間の成長を確認し合い、頼もしい姿が見られました。

● **新任職員フォローアップ研修**
新任職員が半年ぶりに再会し、「地域貢献」についてグループワークを実施しました。自施設の事業発表と「今後、行つてみたい地域貢献」の実現方法を掘り下げ、活発に意見交換を行いました。同期の仲間が集まつたことで、半年間の成長を確認し合い、頼もしい姿が見られました。

● **看護師研修**
各施設の看護師が、医療専門職の視点から「地域貢献」について意見交換を行いました。専門職ならではの具体的な意見が共有されました。情報交換では、各施設の感染症対策の現状を共有し、質の高い医療・ケア提供に向けた意識を統一しました。

● **テーマ別研修**
各施設の看護師が、医療専門職の視点から「地域貢献」について意見交換を行いました。専門職ならではの具体的な意見が共有されました。情報交換では、各施設の感染症対策の現状を共有し、質の高い医療・ケア提供に向けた意識を統一しました。

● **新任職員研修**
法人の歴史、基本理念、規程、マナー、虐待防止などを中心に、新しい仲間を迎えるにあたり、志を一つにするための2日の開催を予定しています。各施設の見学も実施し、村山苑の一員となる意識を深めて頂きます。



ステップアップ研修

フォローフォロー研修

ふくし未来塾に参加して

業務執行理事

つばみ保育園 園長

船木 芳枝



私が今回ふくし未来塾に参加をさせて頂いたきっかけは、社会福祉従事者として長い間保育所に保育士として勤務をしていて、9年前に施設長となり、今まで見ていた事や、感じていた事は、保育の世界での極々目の前の一部の事である事に気がついたことがあります。福祉を取り巻く環境はこれまでと大きく変わり、人材不足、8050問題、ヤングケアラー、

ダブルケアーと様々な課題があり、更に2040年に向け超高齢少子化になり、人口減少が大きく進むことにより、地域生活課題、福祉ニーズが多様化・複雑化し、一層生きづらさが増していくと言われています。こうした背景を踏まえ、「ふくし未来塾」ではふくし制度の枠を超えて、地域コミュニティにおいて共生社会の創造をけん引する「ともに生きる豊かな地域社会」の実現を理念にして、地域との繋がり、地域貢献についての学びを深められればと思ったからです。

対面での講義では、「ふくしの制度の枠を超えた地域貢献、地域コミュニティを作るために自法人が考える公益事業について」であり、ゼミ方式で進められました。参加者は、北は青森、南は石垣島と全国から集まり、種別も、地域の課題も様々ですが、目的はみんなが同じ。どこの法人も現在地域貢献を行っている中で、今回の未来塾では今までにないこれから時代に求められる地域貢献、地域のコミュニケーションになりえる場作りを考えることでした。そして、そこに関わる人がわくわくできる内容でないと持続していくことはできな

い。その内容を踏まえた地域貢献に向けて考えていくという難題が出されました。3日間の対面では、朝から夜遅くまで議論を交わしました。その後は月1回でのオンラインとなり、対話議論するなかでそれぞれの課題に向き合いつつ、取り組みのヒントとなる提案や他法人の取り組み等聞くことができ、とても貴重な時間となり、かけがえのない出会いとなりました。時に厳しい議論となることもありましたが、その対話の中で「村山苑はほぼ同じ地域で他種別にわたる事業を展開していることは他にはない強みである」とことを再確認することができました。そして地域に高校が複数校あることで高校生の力を借りながら地域を盛り上げていけるのではないか、そこから未来の担い手となる人財が育つことも大きな楽しみに繋がりひとつであるとの話になりました。

今各施設で行っている地域貢献を、今後更に法人としてどのように形でまとめ地域コミュニティを作っていくのか、まだまだ未知ではありますが、地域の方のニーズを受け止め、応えていけるよう、又地域の一員であり続けていける

法人であるよう公益事業を行つていく為に一歩踏み出す勇気を持とうと思っています。いろいろな人と手をつなぎ輪を広げていけるよう、そして、一番は楽しい気持ちを持ち続けられるような取り組みを考えていただけます。今回このような機会を得たことで、福祉の基本となる部分の話にも触れ再確認ができた事で、自分の視野が少し広がったと思います。この体験から、これからを支えていく職員の皆さんに福祉の大切さ、魅力を伝え続けられればとも思います。そして社会福祉法人で働くひとりとして、人を支えるのが社会福祉法人であり、人を支える仕組みを作るのも社会福祉法人の役割であることを忘れずにこれからも良質な福祉サービスを利用者に提供することができるよう歩み続けていこうと思います。



施設通信

ふじみ保育園

つぼみ保育園

『給食新聞』

保育士 三宅 理花



して実際に食材に触れ、匂いを嗅ぎ、食べ、子どもたちの気付きやおいしさをみんなで共有して楽しんでいます。そんな姿を保護者に発信することで、家庭でも食の大切さに気付いたり、「家族皆さんで食卓を囲み『一緒に食べるとおいしいね。』という気持ちになつてもう見えたらと思つてきます。

食事はただ単に空腹を満たすだけのものではなく、健康な生活の基礎を培っていくために必要不可欠なもので、そのため保育園でも栽培活動や調理活動、行事食など様々な食育活動に取り組んでいます。そして家庭への発信も大切です。つばみ保育園では『給食新聞』を2か月に1度程度のペースで掲示し、保護者に食育活動を発信しています。内容は「野菜の栽培」や「旬の食材への親しみを感じる活動」・「栄養素について」など様々ですが、その活動を通して実際に食材に触れ、匂いを嗅ぎ、食べ、子どもたちの気付きやおいし



ふじみ保育園では11月15日に秋まつりがありました。去年11月に入職した私は、二度目の秋まつりです。普段と違う雰囲気にドキドキしている子や、おめかしをして非日常感をめいっぱい楽しんでいる子など、様々な姿を見ることができました。去年の私は初めての園全体での行事に緊張ばかりで、実は当時の記憶がほとんどありません。今年は気持ちに余裕をもつて、子どもたちとたくさんやりとりをし、各ご家庭の様子にも目を向け、私自身も秋まつりを楽しむことができました。私は現在年長児の担任をしているため、今のクラスの子たちと経験する行事はすべてが最後です。一回一回を大切に、一緒に全力で楽しんでいこうと思いまます。

ほんちょう保育園

『乳児クラスのお芋掘り』

保育士 菅原 詩葉

保育士 小山 明奈



ほんちよう保育園の乳児クラスの
芋ほりは、園庭にある畑で行います。
2歳児クラスが中心となり、保育士、
栄養士、調理員で構成した食育リー
ダーと一緒に畑作り、苗植えをして
きました。園庭に出た際は、子ども
たちが水やりをして栽培を楽しんで
きました。

先日、秋晴れの下、乳児クラスで
芋掘りを行いました。子どもたちは、
土の感触を手で確かめながら「どこ
にあるかな?」と夢中になつて掘つ
ていました。土の匂い、芋の色や形、
掘り出した時の芋の重みなど五感を
通して自然の恵みを感じる貴重な体
験となりました。自分の力で掘り出
した芋を大切そうに持つ姿は達成感
と喜びが溢れていきました。

四季を通して五感で感じること
を大切にしながら、身近な自然に
親しむ保育を行つていきたいと思
います。

ひよし保育園

『「すぐわくプログラム」

保育士
菅原真由美

すぐわくプログラムとは、「伸びる・育つ（すぐすぐ）」と「好奇心・探究心（わくわく）」を応援する東京都のプログラムを令和6年度から取り組ませていただき2年目になります。



村山荘

『救護合同イベント』

援助員 井口 幹太

さつき荘

『東村山市立

第一中学校職場体験』

相談員 澤井 美里

福祉事業センター

『福祉施設職員の人間関係、

『コミュニケーション事例から学ぶ』

生活支援員 井手 和子

ハトホーム

『介護職員短期派遣研修』

介護職員 河合久美子

令和7年11月13日、村山苑の「救護合同イベント」が開催されました。さつき荘と村山荘の利用者がグラウンドに集い、自分でおにぎりを握り、ステップを用意する参加型の食事会を楽しみました。

当日は気温が低く曇り空でした。が、かまどで作る温かいカレー味とみそ味のステップが体を温め、会話も弾みました。白い息が寒さを物語る一方、その寒さがステップをより一層おいしく感じさせました。

ボランティアやクラブの先生方も参加し、交流を深めました。「自分で作る」という昨年とは異なる企画は好評で、多くながらも「行って良かった」と思える有意義なイベントとなりました。



昨年に続き、東村山市立東村山第二中学校二年生が二名来荘されました。今年の中学生は、福祉施設の見学やボランティアの経験も初めてで、緊張した様子で体験が始まりました。多くの利用者が快く迎え入れてくれた中、クラブ活動や作業、リネン交換、昼食配膳から会議の参加まで、二日間でしたが幅広い体験を楽しむだけではなく、しっかりとやり切つていただきました。「職員が利用者を介助するだけではなく、できることは見守り支援することが印象に残った。」との感想をいたいしています。

す。員今かの感想が聞こえました。研修の後も、また修つて、いき実が向ましす。



福利事業センター人材育成（研修）委員会は、職員アンケートの結果に基づき、「福祉施設職員の人間関係、コミュニケーション事例から学ぶ」と題した研修を企画実施しました。研修実施にあたっては、東京都福祉人材センター登録講師派遣事業を活用し、講師として関屋光泰先生をお招き致しました。事前に研修目的や職員の意向を関屋先生にお伝えし研修内容に反映して頂きました。

研修は、先生の豊富な知見と経験に基づき、職員が「わかりやすく共感」できる事例で構成され、参加型の「ワーク」も盛り込まれました。職員から、日頃の業務も振り返りながら「ストレスケアや、良好な人間関係を築くためのヒントを学ぶこと」が聞こえました。「自分でも思いました。」「自分でも思いました。」などと、多くの反省点はありました。

東村山市高齢者福祉施設連絡会主催の介護職員短期派遣研修といふ取り組みがあります。東村山市内における事業所が相互の交流、理解を深めると同時に、各施設や職員の資質向上に役立てるという目的があります。残念ながらコロナ禍では中断となつていましたが、昨年度より再開しております。今年度も取組みを継続しています。

他施設を訪問して、業務内容を見せていただき事はとても貴重な機会であり、新たな発見や驚きがあり、視野が広がりました。他施設の良い業務や取組みを施設内でも共有し、活かしていきたいと思います。



第2ハトホーム

『大運動会』

看護師 塩野真衣子

ほんちようケアセンター

『基準緩和型訪問サービス

サービス提供責任者 川合 博之

令和7年10月8日（水）、第2ハ
トホームでは秋の恒例行事「大運動

会」を開催しました。入居者の皆さんはフロア毎に分かれ、玉入れや物送りリレー、風船投げなどの競技に元気いっぱいで参加されました。玉入れでは職員が背負ったカゴに狙いを定めて玉を投げ、物送りリレーでは息を合わせて協力し合う姿が印象的でした。風船投げでは飛距離を競い合い、会場は笑いと拍手に包まれました。職員による風船リレーも行われ、入居者の皆さまから大きな声援が送られました。競技を通して笑顔が広がり、心も体も温まる一日となりました。最後には表彰式を行い、「また来年も頑張りたい」との声が多く聞かれました。



また、当事業所ではようやく「基準緩和型訪問サービス（訪問A）」を開始いたします。これは要支援の方などが利用できる身近なサービスで、研修を受けたスタッフが家事支援を行う仕組みです。介護人材の確保にもつながり、一定の研修で働くことが可能となりました。

介護が必要となる前の段階から支えることで、できることを続けながら、住み慣れた地域で変わらず暮らし続けられるよう、これからも支援していきます。

ほんちようケアセンターでは、
地域の皆さまが住み慣れたご自宅
で過ごせるよう、訪問介護サービ
スを提供しています。資格を持つ
ホームヘルパーがご自宅を訪問
し、掃除・洗濯・買い物・食事づ
くりなどの日常生活支援や、おむ
つ交換などの身体介護を行つて
います。ご利用者一人ひとりの
生活に合わせた支援を心がけてい
ます。

村山苑ふりば

法人を目指して

ふりば実行委員長

第2ハトホーム 副施設長 鈴木 野生

令和7年9月21日（日）「村山苑
ふりば」が開催されました。

「ふりは」とは誰もが自由(free)に集まれる場(freeな場=ふりば)という意味を込めた造語です。ふりばには、「地域の皆様との交流の機会をつくりたい」「参加した皆様の横のつながりを構築する場にしていただきたい」という目的があります。

法人内職員のみで完結させたのである。なく、地域の方や、他の事業所、団体の皆様にも積極的に声かけをかけた。」



内容は毎年少しづつ変わっています。ですが、フリーマーケット、フラワー、アレンジメント、作業所での制作物、利用者による綿あめ、地域で営業をするキッチンカー、ポップコーン、かき氷、相談ブース、防災ブース、アトラクション（紙芝居、エプロン、シアター、シナブソロジー、ファвшись）など、多岐にわたります。

